歩いて発見。津の魅力

132 歴史散歩

市指定史跡 赤坂遺跡

桃園小学校の正門前の道を250mほど東に進むと、水田の一角に造られた広場と文化財の説明板が目に入ります。この広場が市の史跡に指定されている木造町の赤坂遺跡です。

赤坂遺跡はこの広場から木造神社の近くまで広がる広大な遺跡で、昭和38年に行われた耕地整理に伴い最初の発掘調査が実施されました。この調査では、弥生時代後期の壷（つぼ）や石で作られた矢じりなどが多数出土し、竪（たて）穴住居の跡なども発見されています。また、弥生時代の竪穴住居が発見された層の30㎝ほど下からは縄文時代の土器も発見され、縄文時代から弥生時代の複合遺跡として昭和49年に市指定史跡となりました。

この赤坂遺跡が再び注目を集めたのは、中勢バイパス建設工事に伴って平成16年に始まった発掘調査の結果によるものでした。三重県埋蔵文化財センターにより実施された調査では、周辺の遺跡も含めて縄文時代から江戸時代まで各時代の遺構や遺物が数多く発見されました。古墳時代の遺物では、コップの形をした陶質土器や、甕（かめ）・甑（こしき）・鉢などの韓式系土器といった朝鮮半島の影響が強い渡来系の遺物が出土し、陶質土器は国内で他に例がない形のものとして平成21年に「木造赤坂遺跡出土陶質土器」として県指定文化財に指定されました。

赤坂遺跡の東には、同じく市指定史跡の木造城跡があります。正平21(1366)年、初代伊勢国司北畠顕能（あきよし）の子、顕俊（あきとし）が木造城を築いて、木造氏を名乗ったとされ、赤坂遺跡を含む木造町の一帯は、南北朝時代から室町時代にかけて木造氏が本拠とした場所でした。

発掘調査によってさまざまな発見があった赤坂遺跡や中世の城館である木造城跡の存在は、古くから木造町とその周辺が人々の生活の場であったことを示しています。

赤坂遺跡

木造城跡